

「空欄」を埋めつつ旅する神の民

長崎教区の要理教育その一例

●上五島出身のわたしが、上五島の小教区に赴任してから早四年になります。どんな任地でもそうですが、前任者に育ててもらった子供たちはどうしてもわたしになつかないし、わたしが赴任してからだんだん成長していった子供たちはわたしのやり方に馴染んでなついてくれます。これはもう宿命のようなものですが、四年間わたしと付き合っ、今年堅信の秘跡を受けた中学生の話を中心に書いてみたいと思います。

●長崎教区で堅信の秘跡を受ける対象者は、だいたい中学生です。学校の勉強も大変なのに、この中学生たちは毎週教会に集められ、部活などを終えて眠い目をこすりながら、カトリックの教えをまんべんなくおさらいします。最終的には堅信の秘跡を受けるにふさわしい信仰理解に到達しているか、口頭試験や筆記試験で試されます。わたしは、口頭試験 50 点、筆記試験 150 点の合計 200 点で理解度を問うてみました。

●筆記試験は、秘跡に関する穴埋め問題にしました。口頭試験は、「日々の祈り」に含まれる祈りが主な範囲です。その中に十戒や教会の掟、使徒信条なども範囲に含まれるのですが、今年は思い切って、「ニケア・コンスタンチノープル信条」を暗記させて、暗誦で

きるかを問いました。これはなかなかの難問で、お恥ずかしい話、わたし自身も子供たちにテストすると宣言するまでは暗誦できていませんでした。もちろん子供たちに叱責されないよう、子供たちより早く覚えましたが。

(以下は月刊誌の発行をお待ちください)

